

在宅ケア Now では、「在宅ケア現場の今」をレポートします。今、在宅ケアが変わり始めています！

在宅介護で活用されている、複合機能付き認知症老人徘徊感知機器「ケアロボコール」の運用事例をご紹介します！



## 大阪府・Oさんの場合

### 【ケアロボ使用開始の状況について】

私自身は自宅近くで仕事をしながら父の自宅介護をしています。

父が転倒して怪我をしたにも関わらず、そのまま半日程度気付けなかったことがありました。何も対策をしていませんでしたが今後大きな怪我が起こらないように防止策として「ケアロボコール 2C」の使用を開始しました。

### 【対策状況について】

「超音波・赤外線センサー」と「ケアロボ」を連動させて父がベッドから起き上がろうとする動きを検知して私のスマートフォンにメール（写真付き）で報知するように設定・設置しました。



【ケアロボ背面から】



ケアロボ側面から】



【超音波・赤外線センサー設置場所】

### 【対策の効果】

介助が必要なタイミングでセンサーが働き、私の携帯電話に写真付きメールが届きます。

メールが届いたタイミングで父の枕もとにある電話に連絡ができますので、緊急度を判断して必要に応じて介助のために職場から近い自宅に帰宅したり、どうしても帰宅できない場合は従業員や介護スタッフをお願いして助けてもらうこともできます。

以前は、父は大丈夫だろうか？と漠然とした不安を抱えていましたが、ケアロボコール導入以降は父の様子を見ることができ、必要な時には連絡をとって状況確認ができるので、父も私も生活の安心感が増しています。導入以降は事故や怪我もありません。

認知症老人徘徊感知機器「ケアロボコール」については HP をご覧ください。 <http://www.technosjapan.jp/product/loiter/carerobot.html>